



アジア社債ファンド

Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)

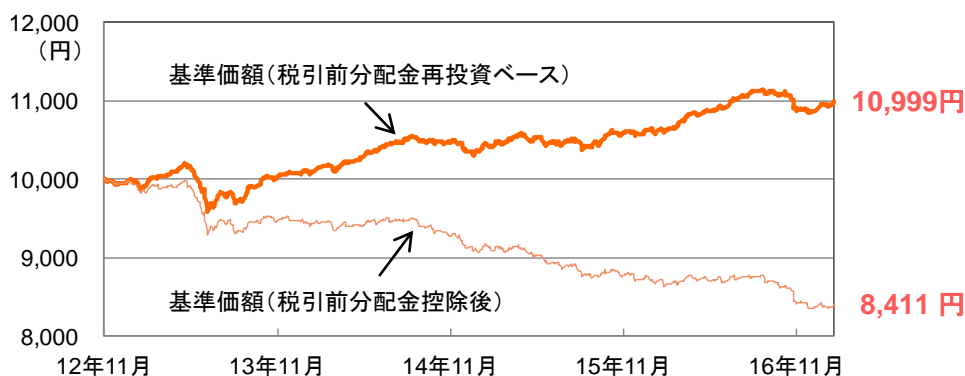
今注目の

「アジア社債市場の魅力」に迫る!

- アジアの企業が発行する米ドル建て社債を主な投資対象とする「アジア社債ファンド」は、近年の変動性の高い金融市場においても、アジア社債市場の堅調な推移を背景に、比較的安定したパフォーマンスをあげています。本資料では、アジア社債市場の魅力について詳しくお伝えします。

基準価額の推移 (2012年11月21日(設定日)～2017年2月10日)

アジア社債ファンド Aコース(為替ヘッジあり)



純資産総額

224.38 億円

2017年1月の分配金額
(1万口当たり、税引前)

50円

設定来合計

2,450 円

アジア社債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)

最優秀ファンド賞

(2016) 投資信託 / アジア債券部門



純資産総額

337.25 億円

2017年1月の分配金額
(1万口当たり、税引前)

120円

設定来合計

4,920 円

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
 ※基準価額(税引前分配金再投資ベース)とは、分配金(税引前)を再投資したもとして計算した理論上のものである点にご留意ください。
 ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

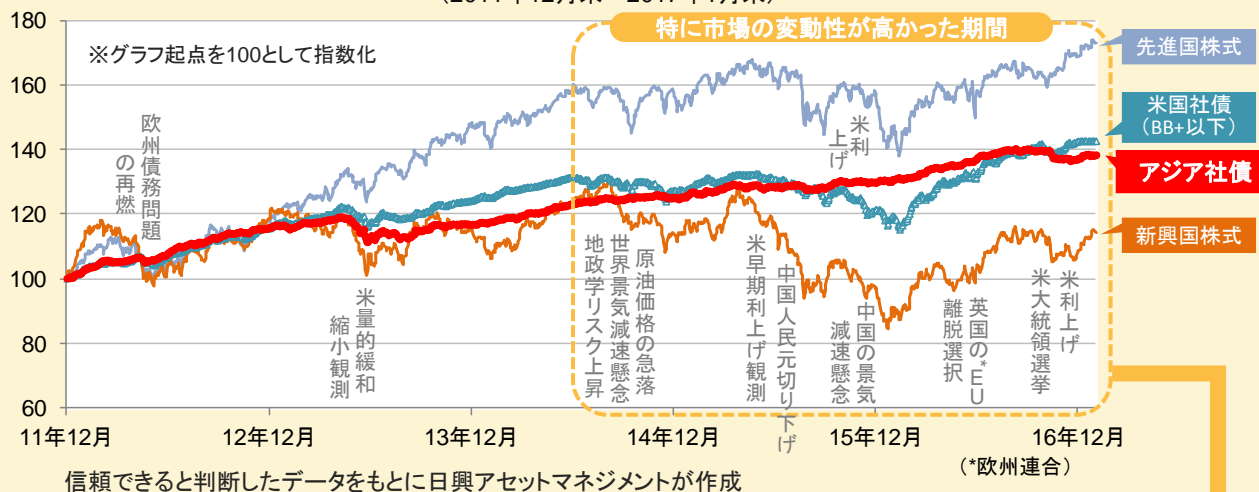
■当資料は、投資者の皆様へ「アジア社債ファンド Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



最大の強みはパフォーマンスの安定感

<市況動向に左右されにくい、相対的に安定したパフォーマンス>

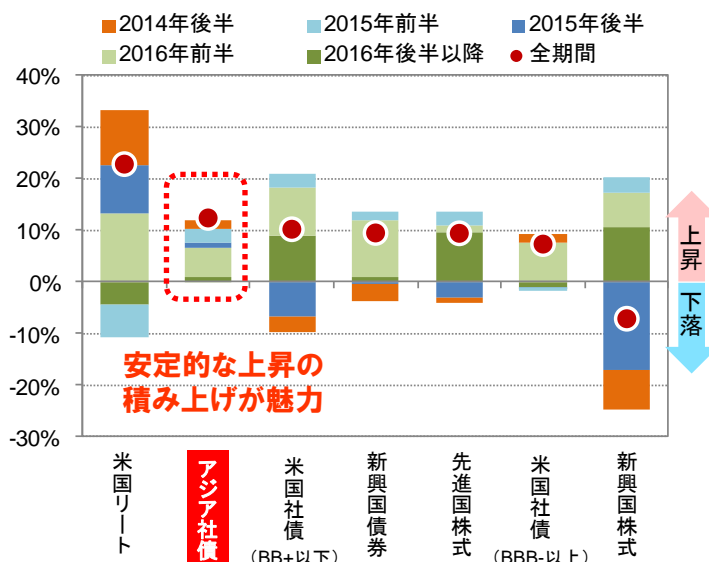
【各資産のパフォーマンス推移(米ドルベース)】
(2011年12月末～2017年1月末)



アジア社債は長期保有に適した資産の一つ

- アジア社債は、株式やリートのように値動きが大きい資産ではありませんが、市場の変動性が高まった期間において、多くの資産が上昇・下落を繰り返すなか、安定的に推移しました。
- 大幅な下落のリスクが比較的小さいため、長期でのパフォーマンスの優位性が高く、長く保有していただくのに適した資産の一つであるといえます。

【各資産の半年ごとの騰落率(米ドルベース)】
(2014年6月末～2017年1月末)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

当ページで使用した指数については7ページをご参照ください。各指数は当ファンドのベンチマークではありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

本資料は、当ファンドが主要投資対象とする外国投資信託「アジア・コーポレート・ボンド・ファンド」の運用会社である日興アセットマネジメントアジア リミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方等を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

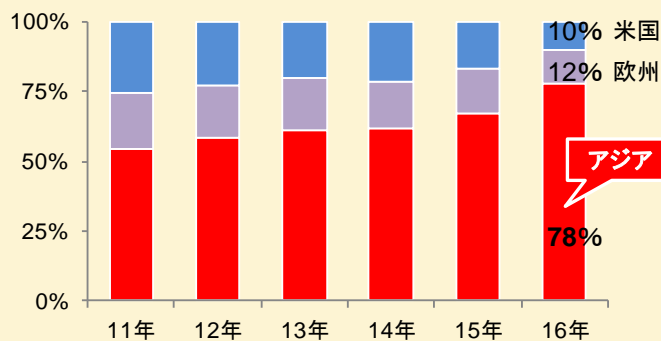
■ 当資料は、投資者の皆様へ「アジア社債ファンド A コース(為替ヘッジあり) / B コース(為替ヘッジなし)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



堅調なパフォーマンスを支える域内投資家の存在

<アジア社債は保有者の大半が域内投資家>

【米ドル建てアジア社債起債時の投資家分布(地域別)】
(2011年～2016年(2016年は11月末時点))



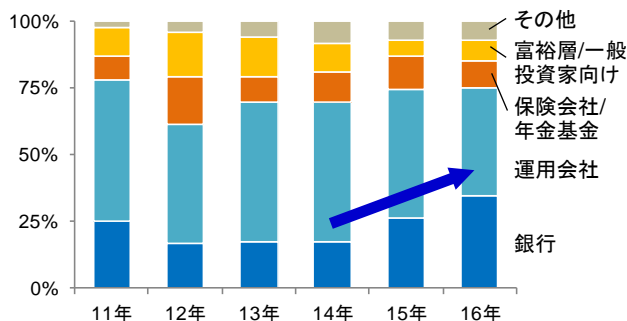
出所: J.P. Morgan

- ◆ アジア域内の中央銀行や政府系ファンド、保険会社などに加え、最近では中国の銀行や個人投資家が新たな買い手として市場に参入しています。
- ◆ 域内の投資家は、域外投資家に比べて長期保有を選好する傾向があり、**市場の変動性が高まる局面でも安定的な買い手として存在感を示す**と考えられます。

域内投資家による 米ドル建て資産の運用ニーズが急増

- 投資家別にみると、近年は特に中国の銀行がアジア社債への投資を拡大しています。中国では外貨預金額の増加が著しく、**銀行の米ドル建て資産による運用ニーズ**が急速に高まっています。加えて、富裕層の拡大から、運用会社や基金などにおいても同様に米ドル建て資産の需要が拡大しています。こうした資金は**長期投資を基本**とし、また、中国では**自国企業への投資を選好**する傾向があることから、魅力的な投資対象として米ドル建て社債の人気が高まっています。
- 今年のアジア社債の新規発行額は2,000億米ドルとも予想されているものの、償還やクーポンの支払いを差し引いた**純供給額は6年ぶりの低水準**になるとみられます。**域内投資家による需要は引き続き高く**、保有債券の償還を迎えた投資家などにより新規発行の大部分が消化される見込みです。

【米ドル建てアジア社債起債時の投資家分布(投資家別)】
(2011年～2016年(2016年は11月末時点))



出所: J.P. Morgan

【中国家計の外貨預金額推移】
(2011年1月～2016年12月)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

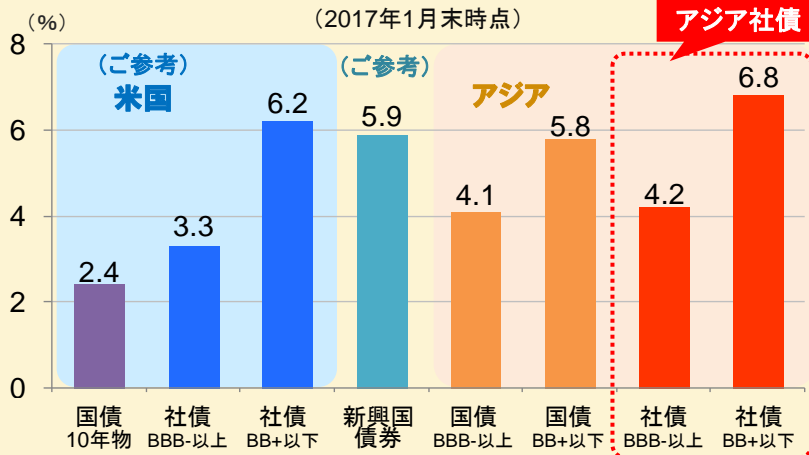
■ 当資料は、投資者の皆様にご理解を促すことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



相対的に魅力的な利回り水準

<比較的高い利回り水準も魅力>

【利回り水準の比較】
(2017年1月末時点)



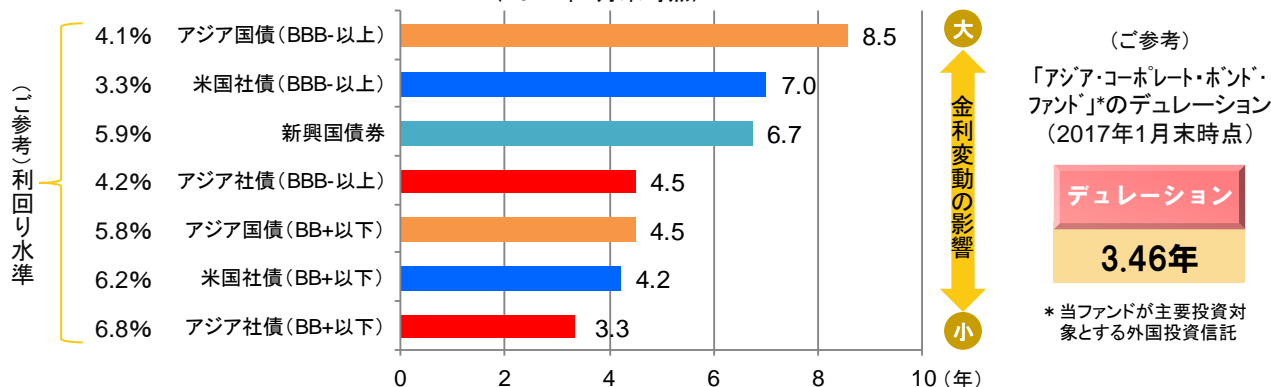
◆ 世界的な低金利環境が長引く中、アジア社債は**比較的高い金利水準の資産**として、投資魅力が高まっています。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

利回りに加え、デュレーションが比較的短いこともポイント

- 債券のリスク指標の一つに「デュレーション(金利感応度)」があります。これは金利の上昇/下落に対して債券価格がどれだけ下落/上昇するかを示す値であり、**デュレーション(年)が長いほど、金利の変動による価格変動リスクは大きくなります。**
- 一般にアジア社債は米国社債などと比較してデュレーションが短いことから、金利変動による価格変動リスクが相対的に小さくなっています。さらに、当ファンドでは、各国の経済指標や金融政策動向を注視し、金利変動リスクが想定以上に高まった場合には柔軟にデュレーションを変更するなど、適切なデュレーション管理に努めます。

【デュレーション水準の比較】
(2017年1月末時点)



(ご参考)
「アジア・コーポレート・ボンド・ファンド」*のデュレーション
(2017年1月末時点)

デュレーション
3.46年

*当ファンドが主要投資対象とする外国投資信託

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

当ページで使用した指数については7ページをご参照ください。各指数は当ファンドのベンチマークではありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様にご理解を促すことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

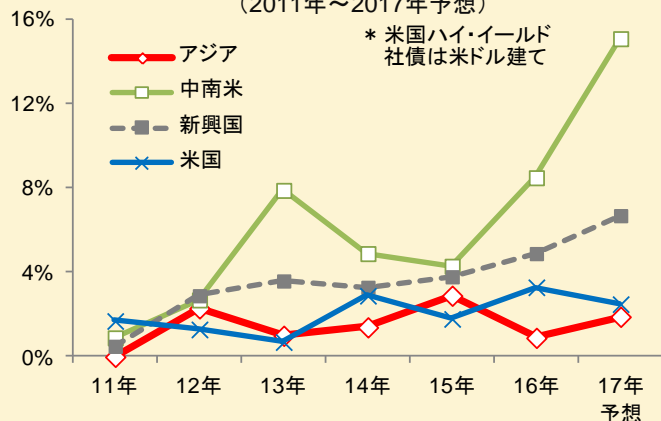


4 良好なファンダメンタルズが企業の信用力を支える

<アジアのデフォルト率は新興国全体を下回る水準>

【外貨建て*ハイ・イールド社債市場におけるデフォルト率】

(2011年~2017年予想)



出所: J.P. Morgan ※100%政府出資の準ソブリン債を含む。

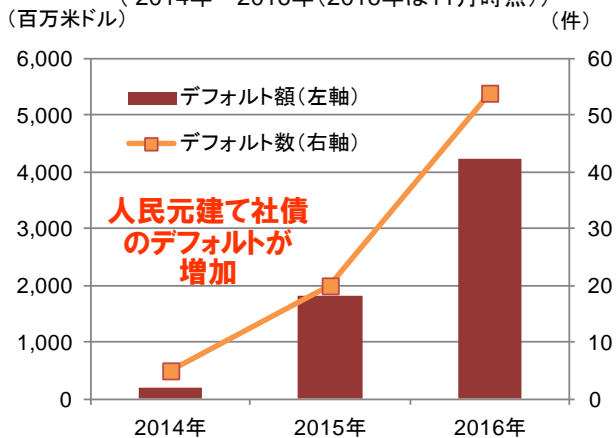
- ◆ アジア社債の発行体には、圧倒的な市場シェアや強固な財務基盤を持つ国営企業など、**良好なファンダメンタルズを有する企業が多い**ことも特徴です。
- ◆ また、比較的**エネルギーセクターの割合が低い**ことや、エネルギー関連企業に**国有企業が多い**ことなども、デフォルトが少ない理由の一つです。

企業の健全性は引き続き堅調、中国企業のデフォルトは、人民元建て社債が中心

- アジアハイ・イールド社債市場における2016年のデフォルト率は、**新興国全体の水準を大きく下回り**ました。また、良好な市場見通しや堅調な企業のファンダメンタルズを背景に、**2017年も引き続き低水準**となる見込みです。
- 近年、中国で企業の債務超過が懸念されていますが、足元でデフォルトが増加しているのは、**オンショア市場(人民元建て国内起債)の社債**です。なお、当ファンドは信用リスクを慎重に精査した上で投資を行っており、**設定来、保有銘柄のデフォルトは1件もありません**。

【人民元建て社債のデフォルト推移】
(2014年~2016年(2016年は11月時点))

【外貨建てハイ・イールド社債のデフォルト率(国別)】
(2014年~2016年)



出所: J.P. Morgan

外貨建て社債市場では目立った増加なし

地域	国	2014年	2015年	2016年
欧州	ウクライナ	23.9%	29.2%	69.9%
	トルコ	0.0%	2.1%	2.9%
	ロシア	0.0%	1.2%	0.9%
中南米	ブラジル	12.5%	7.8%	9.7%
	チリ	10.4%	16.5%	7.2%
	メキシコ	3.1%	6.3%	4.4%
アジア	インドネシア	8.5%	10.2%	0.0%
	中国	1.6%	4.8%	0.4%
	インド	0.0%	0.0%	3.2%
アフリカ	南アフリカ	21.5%	9.2%	26.5%
	新興国全体	3.8%	3.8%	5.1%

出所: J.P. Morgan ※100%政府出資の準ソブリン債を除く。

※ 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様にご理解を促すために「アジア社債ファンド A コース(為替ヘッジあり) / B コース(為替ヘッジなし)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



経済成長とともに企業の格付上昇が期待される

<アジア各国の信用力には上昇余地あり>

【アジア各国の格付】
(2017年1月末)

【各地域のGDP成長率
予想平均】
(2016~2021年)

格付	国・地域名と格付の詳細
AAA	シンガポール(AAA)、香港(AAA)
AA	韓国(AA)、中国(AA-)、台湾(AA-)
A	マレーシア(A)、タイ(A-)
BBB	フィリピン(BBB)、インド(BBB-)
BB	インドネシア(BB+)、ベトナム(BB-)
B	スリランカ(B+)、モンゴル(B-)

アジア新興国

6.4%

4.8% 新興国

世界 3.6%

◆ アジアでは、財務内容が健全な企業や、先進国企業に肩を並べる優良企業であっても、**実態より過小評価された格付を付与されている**場合があります。

◆ 堅調な経済成長を背景に、国の格付が改善すれば、その国の**企業が発行する社債の格付にもプラスに働く**と期待されます。

※格付は、スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)社より自国通貨建て長期債務に対して付与されたものです。

出所: IMF「World Economic Outlook, October 2016」

(ご参考)ソブリンシーリング: 一国において、国や政府の信用力が最も高く、その国の企業の信用格付はソブリン格付を上回らないという考え方

NAM アジアの高いリサーチ能力を活かした銘柄選定力が強み

- 当ファンドは、アジア金融市場の中心地であるシンガポールを拠点とする「日興アセットマネジメントアジア リミテッド(NAM アジア)」が実質的な運用を行なっており、高いリサーチ能力を活かした**個別企業の調査**や**優良な無格付企業の発掘**を行なっています。

<NAM アジアの強み>

30年以上におよぶ、アジアでの資産運用経験に基づいた深い知識や洞察力

各国中央銀行、政策決定者、シンクタンクや企業などと築く良好なネットワーク

優良な無格付企業への投資を可能にする高いリサーチ能力

運用者によるコメント

我々の強みは、ボトムアップの銘柄選定を徹底していることです。定量的な分析に加え、発行体とのミーティングを通じた経営陣のガバナンス能力の精査も重視しています。こうしたきめ細かい運用は、アジア現地の言語や情報網に精通する多様な陣営をもつ我々だからこそ可能だと言えます。

日興アセットマネジメント アジア リミテッド
シニア・ポートフォリオ・マネージャー
リオン・ワイ・フーン



NEWS 8年連続選出

リオン・ワイ・フーンはアジアの金融専門誌「The Asset」の「The Asset Benchmark Research」により、2016年の「Asian Local Currency Bonds, Singapore部門」の「One of the most Astute investors」として選出されました。ワイ・フーンが「Most Astute investors」に選出されるのは、8年連続となります。

※The Asset Benchmark Research は、通貨債券、G3通貨建て債券、株式、クレジットデリバティブ、コモディティデリバティブ、外国為替など、アジアの主要な金融市場を対象に調査を行なっています。



※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

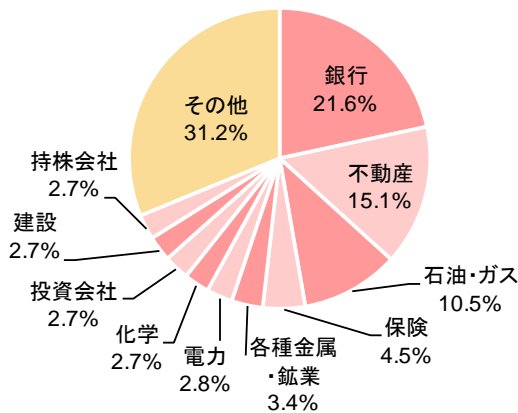
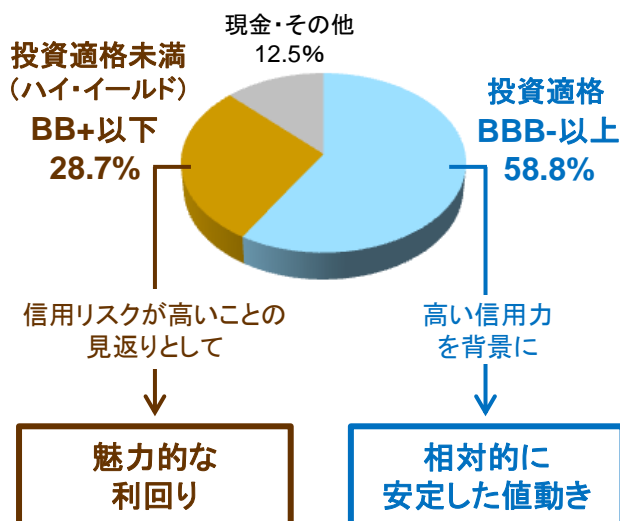
■当資料は、投資者の皆様にご理解を促すために「アジア社債ファンド A コース(為替ヘッジあり) / B コース(為替ヘッジなし)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

当ファンドのポートフォリオ概要 (2017年1月末時点)

<幅広い格付の銘柄に投資>

【業種別構成比率】

【格付別構成比率】



【ポートフォリオの特性値】

最終利回り	平均格付	組入銘柄数
4.22%	BBB	204銘柄

魅力的な利回りも享受しつつ、
相対的に安定した値動きが期待される

- ※ 上記は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「アジア・コーポレート・ボンド・ファンド」のポートフォリオの内容です。
- ※ 上記は、当外国投資信託における数値です。
- ※ 最終利回りは信託報酬、手数料および税金などを考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものでも、将来得られる期待利回りを示すものでもありません。
- ※ 最終利回りは、債券および短期金融資産を満期まで保有した場合の利回りです。
- ※ 平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。
- ※ 格付はS&P、ムーディーズのうち、高い格付を採用しています。格付を取得していない場合は、日興アセットマネジメント アジア リミテッドによる独自の格付を採用しています。
- ※ 上記比率の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料で使用した指数について

《全て米ドルベース》

- アジア社債、国債: JPモルガン アジア・クレジット・インデックス(社債、国債)
- 新興国債券: JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル
- 先進国株式: MSCI ワールド指数(トータル・リターン)
- 新興国株式: MSCI エマージング・マーケット指数(トータル・リターン)
- 米国社債(BB+以下): BofA メリルリンチ・USハイ・イールド・マスターII・インデックス
- 米国社債(BBB-以上): BofA メリルリンチ・USコーポレート・マスター・インデックス
- 米国リート: S&P 米国リート指数

■当資料は、投資者の皆様には「アジア社債ファンド A コース(為替ヘッジあり) / B コース(為替ヘッジなし)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 主として、アジアの国・地域の企業などが発行する債券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざします。
- 2 日興アセットマネジメント アジア リミテッドが運用を担当します。
- 3 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのコースがあります。
- 4 毎月、収益分配を行なうことをめざします。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※ 市場動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。

「アジア社債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)」が
R&Iファンド大賞において最優秀ファンド賞を受賞!

(2016)投資信託/アジア債券部門



「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

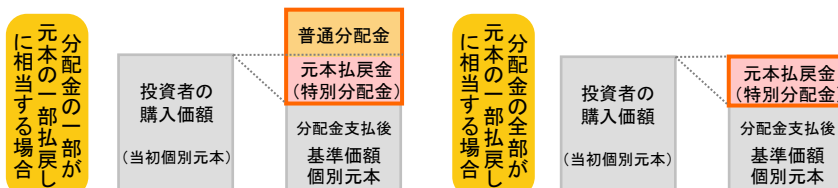
収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

- ・ 普通分配金： 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
- ・ 元本払戻金： 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、(特別分配金) 元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

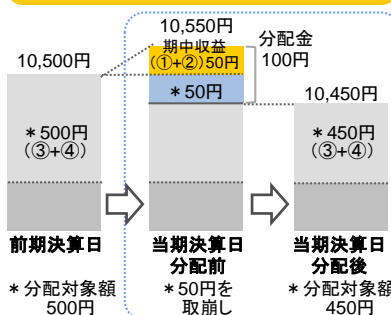
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

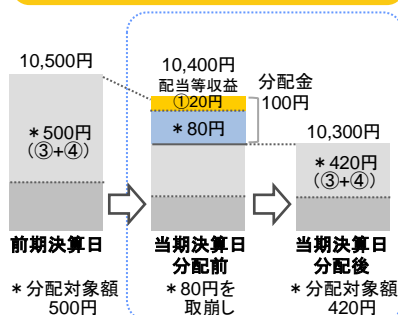
※右記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



前期決算から基準価額が下落した場合



お申込メモ

商品分類	追加型投信／海外／債券
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
ご購入不可日	購入申込日がシンガポール証券取引所の休業日、シンガポールの銀行休業日またはニューヨークの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、購入のお申込みの受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託期間	2022年10月17日まで(2012年11月21日設定)
決算日	毎月15日(休業日の場合は翌営業日)
ご換金不可日	換金請求日がシンガポール証券取引所の休業日、シンガポールの銀行休業日またはニューヨークの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、換金請求の受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して8営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

- 購入時手数料 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、3.24%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める率とします。
※ 分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
 - 換金手数料 ありません。
 - 信託財産留保額 ありません。
- ※ 販売会社によっては、スイッチングが行なえない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

- 信託報酬 純資産総額に対して年率1.6444%(税抜1.57%)程度を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。
信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.0044%(税抜0.93%)、投資対象とする投資信託証券の組入りに係る信託報酬率が年率0.64%程度となります。受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
 - その他費用 目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入る有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※ 組入る有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。
- ※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。
- ※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込みに際しての留意事項

●リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

●その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「アジア社債ファンド Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	: 日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
受託会社	: 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
販売会社	: 販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 http://www.nikkoam.com/ 〔コールセンター〕0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	○			
株式会社北都銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第10号	○			
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

(五十音順、資料作成日現在)

■当資料は、投資者の皆様へ「アジア社債ファンド Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。